



学校だより

令和3年度 10月号
令和3年 10月1日
さいたま市立大谷口中学校

【学校教育目標】 かしこく 美しく たくましく

自己肯定感を高めよう

校長 小林 正樹



10月を迎え、年度の折り返し時期となりました。令和3年度も残り半分です。一日一日を大切に、また、生徒一人ひとりを大切に教育活動に取り組んでいきたいと考えています。

さて、さいたま市新人体育大会の開催は、生徒の健康・安全の確保が困難で、実施することは不可能と判断され、中止となりました。生徒にとって、大きな大会のひとつであり、部活動による活動成果を得る大会が中止になったことは残念でなりません。しかし、暑い夏を乗り越え、練習時間や場所の制約がある中、一生懸命に練習する姿を、教職員一同認めています。特に2年生を中心に頑張っていることは各顧問からも、詳しく聞いています。引き続き、自分の志がぶれずに、毎日の練習を大切にしながら頑張り続けています。また、9月18日は第47回大谷口中学校体育祭が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全学年で開催することができなくなったことも、残念でなりません。今回は、体育発表会と題して3年生のみで行いました。ここで、開会式で高らかに宣言された体育委員長小川くんの選手宣誓を紹介します。

「宣誓、我々、緑学年一同はコロナ禍ですが、かけがえのない仲間、準備・指導をしてくださった先生方、地域、保護者のみなさまの支えがあったから、今この舞台に立つことができている。3年間で作ってあげてきた緑学年の絆を、体育発表会を通し、さらに深め、この最高の仲間とともに一人ひとりの思い出に残るすばらしい体育発表会にすることを誓います」、凛とした態度で私の目を見て宣誓してくれました。ありがとう。当日は3年生の素敵な笑顔と勇姿にたくさんの感動をもらいました。3年生の素晴らしい姿を直接、観戦することはできませんでしたが、2年生、1年生もしっかりと伝統を受け継ぎ、これからの大谷口中学校を築いていってくださることを期待します。

話は変わりますが、2学期は合唱コンクールや市駅伝大会、生徒総会、生徒委員会など様々な活動の取組を通して、自己肯定感を高めたいと切に願っています。この自己肯定感とは、自分のことを「価値ある存在だ」「かけがえのない存在だ」と思う気持ちであり、様々なことに挑戦する意欲や困難に立ち向かう心などの基盤となるものです。子どもたちは、「大切にされている」「認められている」という実感をもつことや、「できた」「自分もやればできる」という自信をもつことで自己肯定感を高めていきます。そのためには、我々教師、親など大人たちの関わりがとても大切となります。大人たちが子どもたちのよさを認め、ほめたり、励ましたり、一緒に悩んだり、子どもたちの心に寄り添っていくことが肝要です。

1年生は、授業の進め方、家庭学習の定着、部活動など様々な場面で理解が深まりました。この2学期の成長が、先輩となる来年度へのポイントとなります。日々の学習や生活だけでなく合唱コンクールに向けた取組など、これからもたくさん学んでほしいです。

2年生は、名実ともに「大谷口中学校の中心（ハート）」になる学期です。夏休み中に部活動に励む姿から、自覚が少しずつ育ち、学校のリーダーとして大いに期待できると感じました。生徒会本部役員をはじめ、部活動や委員会活動においても中心となり、成長できる学期になるよう強く願っています。

そして、3年生の皆さん、皆さんの頑張りが今の大谷口中学校をつくり上げています。後輩たちも3年生の姿を見て立派に成長してきています。自分に甘えることなく進路実現に向けて日々の生活を大切にしてください。皆さんを応援してくれる人たちは皆さんの周りにたくさんいることも忘れないでください。

最後になりますが、新型コロナウイルス感染症は、まだまだ予断を許さない状況が続いています。ご家庭におかれましても、毎朝の検温、マスク着用、手洗いの徹底等、感染症予防への取組を引き続き、よろしくお願いたします。